

1931(昭和6)年に京都帝国大学医学部講師 小笠原登先生は、「ハンセン病に関する三つの迷信」として

1. ハンセン病を不治の病とする迷信、
2. ハンセン病を遺伝病とする迷信、
3. ハンセン病を強烈な伝染病とする迷信 を発表しています。

ハンセン病に対する間違った考え方を指摘しています。既に現在のハンセン病に通じる見方、研究をされてきた専門医が80数年前におられました。

又、この年には在宅治療を認めず、強制収容、絶対隔離、絶滅政策をうたった「癩予防法」が公布され、誤った政策、誤った情報を国が国民に伝えていきます。その事が、ハンセン病に対して偏見、差別を植え付け、現在まで残ってしまった最大の原因であると私は思っています。

どうして小笠原先生の言葉に耳を貸してくれる人がいなかったのでしょうか？日本を取り巻く世界でも、「隔離の必要はない」と言っていたのに、そのことを伝える人はいなかったのでしょうか？

みなさん一緒に考えてみませんか？

今現在、邑久光明園の入所者数は、87名、平均年齢は、86.2歳と超高齢です。もちろんみなさん、ハンセン病は完治していません。後遺症が残り、年齢による様々な成人病の治療をしています。みなさん元気です。今までの人生もそうだったように、これからの人生も一生懸命に明るく楽しく過ごしたいと、一日一日を大切に生きております。

ハンセン病についてもっと知りたいと思っっている方、園内を見学していただくことができます。その上で、私たちのことをご理解いただけましたら幸いです。そして、これからずっとみなさんと共に歩んでいきますことを切に願っております。

平成31年2月28日

邑久光明園入所者自治会

会長 屋 猛 司